

来週の「売り物」記事はこれ



新毎日
新聞日

2012年3月16日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

「靴下屋」創業者、越智直正さん

20日（火）から2週・9回

人気の靴下専門店「靴下屋」などを運営する製造小売業「タビオ」（大阪市）創業者で会長の越智直正（おち・なおまさ）さん（72）＝写真＝が登場します。

タビオはユニクロやGAPなどと同様、製造から小売りまでを統合した製造小売業の先駆けともいえる企業ですが、ユニークなのは、取り扱う製品のほとんどが日本製ということ。中国など安い外国の製品が幅をきかせる中、靴下専業で売上高100億円を達成している異色企業です。

越智さんは愛媛県出身。中学卒業とともに大阪の靴下メーカーに丁稚（でっち）奉公に出され、文字通り、どつかれながら、商売をたたき込まれました。独立後は独自に編み出した販売管理の手法と、品質への強烈なこだわりで、会社をぐんぐん成長させます。

そんな越智さんは今、東日本大震災の津波で塩害に遭った田んぼを綿花栽培で再生するプロジェクトに挑戦中。豪放な語り口からあふれる靴下愛をつづります。



被災地の姉妹が迎える春 くらしナビA面 20日（火）



東日本大震災で母親が行方不明になっている岩手県陸前高田市の高校生姉妹を取材しました。父親は出稼ぎに出ており、姉妹2人きりの生活。しかしこの春、姉は高校を卒業し東京に出て専門学校に通い、妹は1人故郷に残ります。2人の今と将来の夢を追いました。

高齢猫に多い甲状腺の病気 くらしナビC面 20日（火）

猫は高齢になると、パセドウ病のような甲状腺の病気を発症しやすいそうです。これまでは外科手術や人間用の薬を投与する治療しかありませんでしたが、最近、症状を抑える療法食が発売され、治療の選択肢が広がっています。最新の治療法などを取材しました。



お祝いの食卓 くらしナビB面 20日（火）



春は門出のシーズン。喜びと励ましの気持ちを込めた春のお祝い料理について、料理研究家の河合真理さん＝写真＝に紹介してもらいました。ささげを使った「簡単お赤飯」や「鯛（たい）の昆布じめ」、魚介類のうまみが詰まった「紅白のしんじょ椀（わん）」。

球春、いよいよ開幕——21日から選抜高校野球大会

春はセンバツから——。第84回選抜高校野球大会（毎日新聞社、日本高校野球連盟主催）は21日、阪神甲子園球場で開幕し、全国32校の高校球児たちが12日間にわたって熱戦を繰り広げます。東日本大震災の直後に開催された前回大会は、大きな悲しみに打ちひしがれた国内に希望の光を感じさせたとも評価されました。あれから1年。今年の開会式では、震災で多大な被害があった石巻工高（宮城県石巻市）の阿部翔人主将が選手宣誓を務めます。自宅が全壊した阿部主将をはじめ苦難を乗り越えた選手たちが懸命に白球を追う姿は、きっと多くの人の胸を打つでしょう。毎日新聞では連日、全国の選手たちの戦いぶりを、厚く、熱く紙面で伝えていきます。



海外難民救援キャンペーン「ゼロからの出発」南スーダンから

毎日新聞と毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団が続けている「海外難民救援キャンペーン」は2012年、開始34年目を迎えました。今回、昨年7月に独立した「世界で最も新しい国」南スーダンを取り上げます。長く続く内戦でインフラが破壊され、日本の約1・7倍の広い国土に舗装道路は約60キロ。水、食、教育などのさまざまな指標で世界最低レベルにあります。今年2月上旬から3月上旬に記者とカメラマンが南スーダンに入りました。旧母国スーダンとの国境付近では、再び紛争が激化し、記者が訪れた難民キャンプには、着の身着のままの難民たちが続々と集まってきています。頭に裂傷を負った幼児が保護されるのを見ました。家族も、生まれた場所も、名前も、誰にも分かりません。そんな幼児が、つぶらな瞳をカメラに向けています。今回、連載企画を行うに際して、タイトルは「ゼロからの出発」としました。昨年来日した同国の閣僚の発言から引用したものです。連載では、首都ジュバに増えるストリート・チルドレンや、内戦で傷ついた人々の姿など、知られざる南スーダンの現状を伝えていきます。



ビートルズ デビュー50年 今だって「4人はアイドル！」

夕刊特集ワイド面 19日（月）

ビートルズがデビューして、今年で50周年。今も、テレビで、街で、ときに甘く、ときにリズムカルなあのメロディーを聴かない日はありません。解散から40年以上が経過するというのに、今も愛され続ける元祖アイドル。66年に来日した際、100時間にわたって密着取材した写真家の浅井慎平さん、「青春デンデケデケデケ」で直木賞を受賞した芦原すなおさん、伝説のバンド、ザ・フォーク・クルセダーズの元メンバーで精神科医のきたやまおさむさんらと一緒にその魅力の原点を探りました。



「悩み聞きます」 女子に密かな人気「僧職男子」

夕刊特集ワイド面 21日（水）



最近、「草食男子」ならぬ「僧職男子」が人気だといえます。お坊さんというと、葬式や説法のイメージを抱きがちですが、今どきの若い女性たちは違うようです。イケメンふうの若いお坊さんを「美坊主」と呼んだり、お坊さんが店主を務める「坊主カフェ」「坊主バー」に客が押しかけたりしています。人気の秘密を探っていると、現代の女性たちの悩みも浮かびあがってきました。自身も僧侶という純文学作家の川西蘭さん＝写真＝と考えました。

“知りたいが分かる、がモットーの毎日新聞夕刊「特集ワイド」。どうぞご期待下さい。